

# 読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

備前緑陽高（備前市）の2年生が、地元片上地区の魅力を発信しようと、紙芝居の制作に取り組んでいます。記事を読み、質問に答えましょう。

**Q1** 備前緑陽高の生徒たちが制作している紙芝居の題材の一つは「備前片上ひなめぐり」です。どんなイベントか第1段落の言葉で答えましょう。

**Q2** 「宇佐八幡宮」を調べた神社班は学芸員らにインタビューをしました。どんなことを解説してもらったか、第4段落から具体的な部分を書き出しましょう。

## 商店街の催し「ひなめぐり」 備前焼こま犬「宇佐八幡宮」 片上の魅力 紙芝居に



ひなめぐり実行委の指導を受けながら、ひな人の飾り方を体験する備前緑陽高の生徒たち

神社の歴史を学芸員にインタビューする生徒たち

**備前緑陽高生 今夏完成目指す**  
備前緑陽高（備前市西片上）の2年生13人が、地元片上地区の魅力を発信しようと、住民らと協力して紙芝居の制作に取り組んでいる。商店街一帯をひな人形で彩るイベント「備前片上ひなめぐり」、備前焼製のこま犬がある神社「宇佐八幡宮」が題材の2作品。今夏までに完成させ、市内のこども園で読み聞かせなどに活用する。（片岡尚也）

### 住民らと協力 取材、調査重ね構想

地域活性化をテーマとする同高の地域学「びぜんみらい学」の一環で、シナリオやイラストは生徒たちが手作りする。昨年8月から作品ごとに2班に分かれ、ひなめぐり実行委や片上史跡文化の会といった関係団体への取材やフィールドワーク（実地調査）を重ねながら、構成を練っている。

1日は、市民センターでひな人形の飾り方を体験。同実行委のメンバーから、壇の組み立てをはじめ、人形を置く位置やぼんぼりの向きなど細かな慣習を丁寧に教わった。ひなめぐり班の杉本来未さん（17）は「ひな人形一つ一つの表情が違っておもしろい。華やかさが子どもたちに伝わる作品に仕上げたい」と意気込む。

一方、神社班は1月中旬、史跡文化の会会員や市歴史民俗資料館の学芸員にインタビュー。拜殿に続く石段の登り口に鎮座するこま犬の大きさが備前焼製としては県内最大級とされることなどを解説してもらった。中村凜さん（17）は「貴重な地域の遺産。歴史の話がわかりやすく伝え、語り継いでもらえれば」と話している。

生徒たちは今後、地域のこども園も訪問し、幼児に適した内容についてアドバイスをもらう予定。3月以降に作画や絵付けといった本格的な制作作業に取りかかる。

2月14日付山陽新聞、東備版

**Q3** 生徒たちは紙芝居をこども園での読み聞かせなどに活用することを目指しています。完成に向け、作画や絵付けのほかに、今後何をやる予定ですか。第5段落に注目です。

過去の問題は  
こちらから ▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。